

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401717		
法人名	株式会社あおいホーム		
事業所名	グループホームあおい		
所在地	福岡市早良区西入部2丁目7番20号 (電話)092-803-0381		
自己評価作成日	令和5年10月21日	評価結果確定日	令和6年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・「その人らしく」個別ケアの徹底
- ・見て、食べて美味しいお食事（厨房での手作り・無添加）
- ・歌と体操（毎日）
- ・季節ごとの行事

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和5年11月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の前には河川や畑、ビニールハウスが並び、のどかな環境にある。デイサービスセンターが併設しており、敷地内には家庭菜園があり、季節の野菜の収穫を楽しむことができる。収穫した野菜や地域住民からいただく採れたての果物、野菜や米のおすそ分けは、食事メニューに取り入れている。食事は3食とも隣接するデイサービスの厨房で調理したものを事業所に運び、盛り付けて配膳している。内部研修は年間で計画しており、全職員が研修内容を把握できるような体制を確立している。日常活動の様子を写真一覧にして、定期的に家族へ郵送し、利用者の様子を知らせるようにしている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく」穏やかに暮らしていける個別ケアの徹底について、職員はいつも意識してしながら実践に結び付けています。	理念は事業所内に掲示しており、管理者が職員会議やミーティングで伝えて共有し、日頃から職員の支援が適切であるか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事・イベントを通じて地域との交流を図り、有事にはサポート連携できるような関係を構築しています。	地域の介護福祉に関するネットワークに加入しており、事業所の活動を写真一覧で配布している。地域の敬老会にも参加し、交流を深めている。地域住民から収穫した新鮮な野菜や米、果物をいただく関係性も構築している。今後は、感染状況を見ながら、事業所行事や地域活動を通して日常的に交流する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会との関係性も良好で、地域主催の行事・イベントにも招待されています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表、地域代表、有識者代表、いきいきセンター、など、客観的な立場から貴重な意見を頂き、職員全体にも会議内容を回覧・周知することで、サービスの向上に努めています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催している。家族や地域包括支援センター職員、民生委員、訪問看護職員、デイサービスセンター職員が参加している。利用者の状況報告を詳細に行い、参加者からの意見を募っている。今後は参加者から地域の実情や課題等を取り上げてもらい、事業所としてできることを検討する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定更新や外部評価はもとより、平時における変更など疑問点があれば必ず問い合わせ、慎重かつ丁寧に対処しています。	行政とは日頃から連携しており、介護保険制度や加算の確認や、人材確保の相談等を行っている。運営推進会議の議事録は市へ送付し、運営の実情の報告を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部および内部での研修の実施を徹底し、委員会を中心に職員全体での取り組みを行い、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束をしないケアを実践するために、委員会活動や研修会で得た知識を職員間で共有し、実践につなげるようにしている。転倒リスクのある利用者も見守りを強化し、センサーの設置をする等で、身体拘束をしないケアを目指している。不適切なケアをしていないか、スピーチロックになっていないか等、職員同士で確認合っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部および内部での研修の実施を徹底し、委員会を中心に職員全体に周知し、細心の注意をもって取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の生活歴を十分に理解した上で、適切な介護サービスを提供できるよう制度の理解と活用に努め、職員の意識も高いです。	制度に関して家族等に契約時に説明している。成年後見制度と日常生活自立支援事業に関する外部研修を受講した職員が、研修資料を基に全職員へ内部研修会を開催し、知識を深めている。研修資料を保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前の丁寧な説明によりご理解いただき、ご納得いただけるよう細心の注意を払って対応しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議の開催を重視し、ご家族からのご意見や励ましのお言葉を職員全体で共有することで、日々の介護の実践に役立てています。	利用者からの要望は日頃から聞き取り、ケアに活かしている。利用者や家族から生活支援や医療面についての要望や相談がある際は、柔軟に対応している。利用者や家族からの要望は申し送りノート等で共有し、統一したケアが実践できるように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上の決断は代表者および管理者が責任を持って対処しているが、職員の意見も大いに参考にすべく傾聴する機会を積極的に設けています。	職員会議やフロアミーティングは、それぞれ月1回実施しており、ケアの方針やレクリエーション企画、業務内容に関すること等を全職員で話し合っている。管理者は職員の得意、不得意を見極め、適材適所で役割を持たせて実践させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に声かけを行い、面談などを通じて意見に耳を傾けることで就業環境の整備に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	公明かつ正大に職員募集および採用にあたっては、就労条件に不利益が生じないように慎重かつ丁寧に対処しています。	法人は定年がなく就労することができる。職員が希望する研修会や資格取得に対しても、受講料や交通費、シフト調整等を支援している。法人内研修も年間計画され、委員会活動も行い、職員のレベルアップを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	委員会を設置し、定期的な会議・研修を通じて職員全体に啓発できるよう取り組んでいます。	福岡県高齢者グループホーム協議会主催の高齢者、認知症に関する人権に関する外部研修に参加し、全職員に伝達研修を実施している。今後は様々な人権について学習し、職員の質の向上に取り組む予定である。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部および内部研修の機会を確保しながら、介護サービスの質を上げるべく取り組んでいます。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所とのネットワーク会議に月1回参加し意見交換などを通じて交流を行っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に面談を行って、ご本人様が困っている事や不安なことやご要望などを詳しく聴かせてもらっています。安心して生活できる場所の提供に努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に、ご要望などをご家族様からもより詳しく聴かせてもらうことで、生活歴などご本人からのお話内容を補充しています。ご家族自身のご要望についても積極的に拝聴し、ご家族との信頼関係の構築に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはサービス内容を丁寧に説明をさせてもらうことでご理解を頂いています。さらなるご要望があれば、できる範囲で応えることができるよう対応を心がけています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の流れの中での何気ない会話など、コミュニケーション・スキンシップを通して信頼関係を築き、良好な関係を構築できています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策を継続していますので、共に時間を過ごすことが限定されていますが、お写真やお手紙により、またはご家族への連絡時には詳細に近況報告することで安心いただけるよう努めています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所へ訪れることは難しくなっていますが、限られた中ではあるものの、面会や交流など、今できる支援を行っています。	利用者の馴染みの場所や人間関係、生活歴は入居前の聞き取り調査で全職員が把握している。コロナ禍前は友人等の訪問や外出で関わりが保てていたが、現在は自粛している。今後、感染状況を見ながら、関わりが保てるよう再開予定である。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りを行う中で、ご入居者同士の会話や気遣いを行う場面で、適度なサポートを行っています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居後にご家族からの手紙や電話、立ち寄られてのご挨拶など近況をお知らせ頂いています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様の思いを確実に実行できるようにすることが大切であることを十分に認識し、ご家族の考え方の把握のために連絡を密にしながらご意向にそったケアを実現しています。	入居後3ヶ月ほどを、利用者を知る期間として集中的に情報収集している。利用者や家族から得られなかった情報は、入居前に関わっていた事業者や関係機関から聴き取っている。特に笑顔に満ちた楽しい暮らしは食べ物と大きく関係しているため、食べ物の嗜好の把握を大切にしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴を確認・把握し、その環境にできる限り近い生活を送っていただけるよう支援しています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様が行いたいを思うこと、そしてその理由を理解し、身体状況を見ながら、穏やかに過ごすことができるように努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様に何か変調があれば細かいことであっても速やかに施設長に報告の上でまずはご家族に連絡・相談するとともに、訪問看護師や提携医療機関にも連携しながら、スタッフ間で情報共有に努めています。モニタリングからアセスメントによりケアの見直しを繰り返し、ケアの充実を図っています。	事業所では担当制を採っており、担当職員はモニタリングを毎月作成し、ケアマネジャーに渡している。ケアマネジャーは毎月のユニット会議で、職員から情報収集したものの、利用者や家族から聴き取りしたもの、受診時の医療情報等をまとめてプラン原案とし、担当者会議で検討し、ケアプランを確定し、家族から同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日24時間のケアを丁寧に記録しています。さらに、申し送りノートを通じてスタッフ間はケアの詳細を許攸し、ユニット会議で全スタッフでケアの見直しを行っています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望があれば、他事業所と連携をとる対応や検討を行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の方やご家族を様々な行事にご招待して一緒に楽しんで頂いていましたが、まだ感染対策継続中につき、ご利用者のみでの行事開催が続いています。その様子を撮影した写真などをご家族や地域の方にもご覧いただくことで、施設内の様子を伝えています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科・歯科・眼科の定期的な往診を受けています。ご家族の不安や心配を軽減すべくかかりつけ医と十分な情報共有に努めています。夜間に受診が必要になれば、訪問看護師を通じて医師からの適切な医療が受けられる支援をしています。	事業所には往診を行う内科総合診療医が協力医であることを入居時に説明している。入居前からのかかりつけ医を引き続きかかりつけ医とする希望がある際には、往診での診療をお願いしている。他科受診に家族と出かける際には、外出の用意を支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	口頭での申し送りだけでなく、ノートを通じてスタッフ全員が細かく情報共有できるようにしています。ご入居者の状態変化があるときは訪問看護師に連絡して指示のもとに適切な支援を行っています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は安心して治療できるよう訪問看護師やご家族と十分に情報共有しています。往診時には医師への報告を十分にすることにより、早期に通院することができる指導があったり、何でも気兼ねなく相談できます。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とお話する機会を少しずつ重ねていきながら、重度化してきた段階で主治医・訪問看護師と交えてご家族やご本人様の要望を伺い、気持ちに寄り添って、治療方針や看護・介護方針などを共有しながら支援しています。	当事業所は開設者の意向により、看取りケアを提供する事業所として、別棟に家族支援目的に専用区画を用意したり、職員に看取りに関する研修を実施する等、物的・人的環境整備に努めている。看取りが終了する度に、看取り委員会を開き、看取り過程を見直す機会としている。看取りケアが始まった後も、随時家族と職員とで意思確認の機会を持っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初期対応は、24時間対応の訪問看護師にまずは連絡、施設長に連絡をして指示を確認できるよう、実践を重ねて周知できています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成し、研修・訓練を通じて職員に周知する機会を作っています。地域の関係機関とも連携できるよう準備しています。	年に2回、防災・避難訓練を行っている。ハザードマップから、水害対策に取り組んでいる。防災業者による設備や器具の取り扱いの説明や指導を受けている。避難訓練を実施する際に、地域住民に特に呼びかけていない。非常用備品は、事業所内に3日分保管している。	非常時には地域の協力が不可欠であるため、運営推進会議や民生委員、行政等を通じて地域住民に避難訓練参加の協力を呼びかけてほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の中で馴れ馴れし言葉遣いをしないよう、その方の尊厳を重んじて対応しています。	採用時のオリエンテーションで、プライバシーを守る意味を学んでいる。職員会議で年に2回ほど、プライバシーについて学ぶ機会を設けている。排泄チェックなど利用者の生活状況に関わるデータは来訪者の目に入らない場所に保管している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望に耳を傾け、日ごろの会話や動作の中からも思いをくみ取ることができるように対応しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しながら、ご希望にそえるよう心がけています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用して、整容していただく機会を作っています。外出または行事のときにはお化粧品・アクセサリーで装飾して参加して頂いています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの食材やメニューを通じて会話を楽しみながら楽しい雰囲気です食事を召し上がってもらっています。行事食や屋外職などで、見た目の盛り付けにも工夫を凝らしています。	3食とも、併設するデイサービスの厨房で調理したものを事業所に運び、盛り付けて配膳している。ご飯と汁物は事業所で作っている。利用者からの要望をデイサービスに伝えて、献立に反映させている。調理場はフロアに面しているため、利用者は調理の音や匂いを感じながら、家庭に近い形で日々を過ごしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を日々観察し、食事形態も変更しながら摂取量の確保に努めています。水分もとろみやゼリー状にして少しでも摂取量が増えるようにも工夫しています。個別の食事支援も行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの能力に応じて見守り、仕上げ磨き、自分で口腔ケアを行えない方については声かけしながら歯ブラシと歯間ブラシ・口腔スポンジを使って口腔ケアに努めています		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の状態をスタッフ間で共有し、オムツやパットの種類や排泄パターンを話し合い、声かけやパット交換を行っています。夜間も排泄可能な利用者に対してはトイレ誘導を行っています。	トイレは引き戸で、照明は人感センサー式である。トイレのドアに「便所」という貼り紙がなされ、トイレへ向かう角には指差しサイズの大きな絵が貼られている。排泄はトイレできるように、介助者も動きやすいようにトイレ内は広く造られ、手すりも取り付けられており、利用者は身体状況に合わせた支援を受けることができる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションの時間に行っているラジオ体操やリハビリ体操で適度な運動を行い、水分摂取と十分な食事摂取で食物繊維を摂って便秘の予防に努めています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は午後に行い、入浴前にバイタル測定を必ず行っています。ご入居者一人ひとりに合わせた入浴介助を行っています。	お風呂は毎日湧かしており、利用者は週に2～3回入浴している。同性介助やストレッチャー、リクライニングチェア等、利用者に合わせて入浴できるよう職員のシフトを工夫している。ほとんどの利用者が入浴を好んでおり、利用者は、職員との楽しい語らいの場として入浴を楽しみにしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後とご本人の希望にあわせた休息時間を確保しています。2時間医兄の臥床の時間を設けるなど個人の状況に応じた支援を行い、夜間は就寝する時間に合わせて入眠できるようにしています。1時間ごとに巡回・訪室しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬日時により薬ケースを色分けし、名前を確認しながら1つ1つセットして管理しています。薬の追加・減量・中止があれば、申し送りノートで細かく情報共有し誤薬や与薬漏れがないよう徹底しています。訪問看護師にもその都度報告して情報共有しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、スタッフ間で話し合っって色々と試しながら、楽しく生活できるように支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだ感染対策継続中のため遠くへの外出機会は作れていませんが、天候や気温に気をつけながら施設の中庭を散歩して外気浴の機会を作っています。気候が良いときは、テラスでレクリエーションを行って、歌を楽しんだりしています。	現在は感染予防のため、外出や買い物、ドライブは行っていない。敷地内の散歩は気候に応じて行っている。庭に面してテラスが設置されており、天気が良ければ毎朝の歌や体操の時間にテラスに出て行っている。畑のすぐ近くまで遊歩道が通っており、散歩がてら作物の育ち具合を見に行く等、楽しむことができる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できないため、必要なものや購入希望のものがあればご家族に了承を得てから対応しています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話することはできませんが、ご家族からの電話を取り次いで会話を楽しまれています。ご家族からの手紙は大切にされ、とても嬉しそうにされています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の整理整頓に努め、壁には行事の写真や花の貼り絵などを掲示したりテーブルや玄関に飾っている花を見て楽しまれています。庭には季節の花や畑に野菜を植えて収穫し、お食事の一部として提供しています。四季の移り変わりを楽しむことができ食事を提供できるように努めています。	フロアには、庭に咲く季節の花が飾られ、居心地の良い空間づくりの工夫がある。フロアは時に作業場になり、時に午睡の場になり、時に腰掛けて語り合う場となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心・安全に過ごして頂けるような居場所を探し、ご入居者に合わせたスペースを確保しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やバスデーカード、お好みのものなどを置き、整理整頓して清潔維持に努めています。	居室のドアは引き戸で、車椅子での出入りもしやすい。ベッドは利用者の身体状況に合わせた物が用意されている。居室には馴染みの家具やテレビ、写真、思い出の品が置かれており、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、動線の確保・席の配置など、十分に安全に配慮しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく」穏やかに暮らしていける個別ケアの徹底について、職員はいつも意識してしながら実践に結び付けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事・イベントを通じて地域との交流を図り、有事にはサポート連携できるような関係を構築しています。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会との関係性も良好で、地域主催の行事・イベントにも招待されています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表、地域代表、有識者代表、いきいきセンター、など、客観的な立場から貴重な意見を頂き、職員全体にも会議内容を回覧・周知することで、サービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定更新や外部評価はもとより、平時における変更など疑問点があれば必ず問い合わせ、慎重かつ丁寧に対処しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部および内部での研修の実施を徹底し、委員会を中心に職員全体での取り組みを行い、身体拘束をしないケアを実践しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部および内部での研修の実施を徹底し、委員会を中心に職員全体に周知し、細心の注意をもって取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の生活歴を十分に理解した上で、適切な介護サービスを提供できるよう制度の理解と活用に努め、職員の意識も高いです。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前の丁寧な説明によりご理解いただき、ご納得いただけるよう細心の注意を払って対応しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議の開催を重視し、ご家族からのご意見や励ましのお言葉を職員全体で共有すること、日々の介護の実践に役立てています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上の決断は代表者および管理者が責任を持って対処しているが、職員の意見も大いに参考にすべく傾聴する機会を積極的に設けています。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に声かけを行い、面談などを通じて意見に耳を傾けることで就業環境の整備に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	公明かつ正大に職員募集および採用にあっています。就労条件に不利益が生じないように慎重かつ丁寧に対処しています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	委員会を設置し、定期的な会議・研修を通じて職員全体に啓発できるよう取り組んでいます。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部および内部研修の機会を確保しながら、介護サービスの質を上げるべく取り組んでいます。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所とのネットワーク会議に月1回参加し意見交換などを通じて交流を行っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や支援者からの情報、生活歴・性格を踏まえ、ご本人の思いを傾聴し、ニーズの把握に努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで介護されてきた気持ちを受け止め、労うと同時にご入居後も協力して支援してもらえるような働きかけをしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの特徴や料金の説明などを十分に行い、支援者等を含め本人の今の状況に合うサービスを検討して頂いています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態に応じた介護を行い、その方ができるところを見出し、支えあって生活を行えるような関係作りを心がけています。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は時間制限はあるが対面での面会は可能となっています。面会時や電話等でのご本人の情報共有を行うことで、ご家族からのお話の中でヒントを得たり、協力を依頼する等、共にご本人を支える関係作りを心がけています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所へ訪れることは難しくなっていますが、限られた中ではあるものの、面会や交流など、今できる支援を行っています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や相性、BPSDを考慮し、スタッフが介入しながら利用者同士が関わられる支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居された方でも、ご家族との関係が続いていたり、お知り合いの方が相談して下さいたりといった関係が続いています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人に寄り添い、スキンシップもとりながら話しやすい雰囲気づくりを心がけ、ご希望やご意向に沿った生活を送ることができるように支援しています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から思い出・生活歴を伺い、馴染の生活ができるように心がけています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の個人のペース、心身状態に合わせて1日を不安なく楽しく過ごしていただける様に心がけています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況や意向、ご家族や医療機関の意見を踏まえ、月1回のケース検討会や通常3ヶ月に1回のプラン見直しを行っています。また、毎月担当職員が評価を実施し、状態変化に対しても早急に対応できるような情報共有にも努めています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には日々の様子等を記録しています。また、業務日誌や申し送りノートを活用や、職員同士で気づきなど、日頃から情報共有を行っています。その中で見直しが必要な場合には迅速に対応を行っています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望があれば、他事業所と連携をとる対応や検討を行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策のために現在も外出については制限していますので、施設内での行事を中心にを行っています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他科の受診時には、ご家族の意向や希望をふまえて主治医を決定し、かかりつけ医と連携して適切な医量を受けられるように支援しています。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の介護の実践の中での問題点や気づきなどご利用者の情報を的確に訪問看護師へ報告を行い、適切な医療的処置を受けることができるよう支援しています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者の入院時から医療機関との情報を共有し、退院に向けた連絡・調整を密に行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、ご家族と何度もカンファレンスを重ねながら「看取り」についての説明と確認を行っています。訪問看護師のサポートもあり、ご家族が安心され信頼も大きく実績も豊富であります。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ対策により外部での研修機会が少ない状態が続いていますが、施設内での内部研修を充実させることで、実践力に結び付けています。訪問看護師からのアドバイスも貴重なものとし、救急対処法について再確認する機会も得ています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成し、研修・訓練を通じて職員に周知する機会を作っています。地域の関係機関とも連携できるよう準備しています。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ伺うときは、その方のお名前を呼び、声かけを行うフロアにいらっしゃる時は入室時必ず用件を言って訪室するように心がけています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の動きや顔の表情を見て対応できるように行っています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて見守り支援を行っています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の髪の毛のセットや髭剃りなどの整容を通じて清潔ケアを支援しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	そのときのメニューや食材の説明をさせてもらうことで、食への関心を惹きつつ、旬なものを通じて季節感を感じてもらうなど、とにかく食事を楽しんでいただけるよう力を入れています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の食事の様子から、その方にあった食事形態・水分を提供し、一日トータルの摂取量を詳細に記録・管理しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ずその人に合わせた口腔内のチェックと口腔ケアを徹底に努めています。いわゆる歯磨きが難しい方には口腔用ティッシュやハミングッドなどを使用しています。義歯の衛生管理にも気をつけています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄のパターンに合わせた声かけを徹底し、丁寧に支援を行っています。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給には細心の注意を払っています。医療とも連携して排便コントロールも行っています。また、ラジオ体操などレクリエーションと通じて体を動かす機会を作るよう心がけています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は決まっていますが、ご入居者様の体調などに合わせてフレキシブルに対応しています。拒否がある場合も、楽しく入浴できるよう環境整備に努めています。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも体調に合わせて居室へ誘導してベッドで午睡していただく時間を作っています。就寝・起床のリズムについても、ご入居者様に合わせて設定し対応しています。夜間就寝中は1時間おきに巡回・訪室してご様子の確認に伺っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方について把握し、医師からの指示通りの服薬を支援しています。症状や体調の変化があればすぐに訪問看護師に相談の上、主治医にも報告し対応・処置をしてもらっています。服薬の変更があればスタッフ間での周知を徹底し、訪問看護師への連絡も必ず行っています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの意向とADLに合わせて、日常のお手伝いをお願いしたり、ご入居者どうしでの談話など、できるかぎり自由にお過ごしいただくように努めています。スタッフからも積極的に声かけをし、コミュニケーションの機会を作っています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策継続中のため外出機会についてはまだ制限していますが、敷地内の庭園にて外気浴・散歩・行事（花火や歌など）を医行い、気分転換の機会を作っています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご利用中の方についてはお金を使う機会がありませんので、所持している方についてはご家族と相談の上で管理しています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話はご本人様に取り次ぎ、安心して連絡できる環境にあるよう努めています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「思い出のギャラリー」として写真を貼り付けたり、季節にあった手作りの作品を飾り付けたり、穏やかに楽しくお過ごしいただけるよう工夫しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お花が好きな方には花の塗り絵をして頂いたり、歌が好きな方には、童謡・懐メロなど音楽を聴いて過ごしてもらっています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やご家族からの手紙を置いたり、スタッフからの感謝の気持ちが伝わるよう感謝状を飾ったり、心地よく過ごしていただけるよう努めています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子、トイレでの座位から立位についても、きるかぎり自立できるよう見守り、歩行器使用時にもそばにいて安全に歩行できるよう見守りを強化しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		